

「標準治療抵抗性の非小細胞肺癌に対する ゾレドロン酸誘導 $\gamma\delta$ T細胞を用いた免疫細胞治療」 先進医療Bについてのご案内

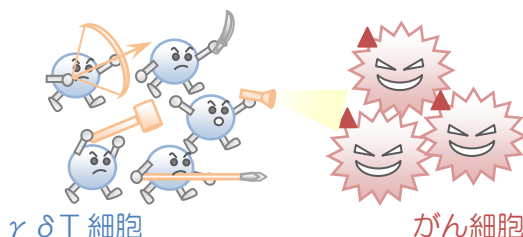
患者さんへ

東京大学医学部附属病院 呼吸器外科では、肺癌の治療として $\gamma\delta$ （ガンマデルタ）T細胞治療という新しい治療法の有効性と安全性を調べるための臨床試験を、第3項先進医療技術（先進医療B）として実施しています。

◇ $\gamma\delta$ （ガンマデルタ）T細胞治療とは

・ $\gamma\delta$ T細胞とは

$\gamma\delta$ T細胞は、がんや感染症などから、からだを守る役割を担うリンパ球の一種です。 $\gamma\delta$ T細胞は、がん細胞の表面に存在するがんの“目印”を感知して、がん細胞を攻撃する能力を持っています。この $\gamma\delta$ T細胞の力を活用して、がんの治療に役立てようとするものが、 $\gamma\delta$ T細胞治療です。抗がん剤や放射線治療とは異なる作用機序によって、がん細胞を破壊することで、病気の進行を遅らせる効果が期待されています。



・ $\gamma\delta$ T細胞治療の特徴

$\gamma\delta$ T細胞は、血液中に通常1～2%しか存在していないため、 $\gamma\delta$ T細胞治療を実施するためには $\gamma\delta$ T細胞を増やす必要があります。 $\gamma\delta$ T細胞治療は、患者さんから採血をしてリンパ球を集め、2週間かけて培養することによって大量に増やした $\gamma\delta$ T細胞を点滴する治療法です。

◇ 治療の対象となる方

この治療は、非小細胞肺癌の患者さんで下記のいずれかにあてはまる方を対象としています。

- ① 手術による治療の後にがんが再発して、抗がん剤などの治療を受けた患者さん
- ② 手術による治療が難しく、放射線療法や抗がん剤等の治療を受けた患者さん

この治療は臨床試験として実施しているため、上記に当てはまる方でも治療を受けられない場合があります。治療を開始する前に、治療に必要な $\gamma\delta$ T細胞が増えるかどうかの培養検査など、試験の参加に必要な検査を行います。あらかじめ決められている判定基準にもとづいて、治療を受けていただくかが判断されます。



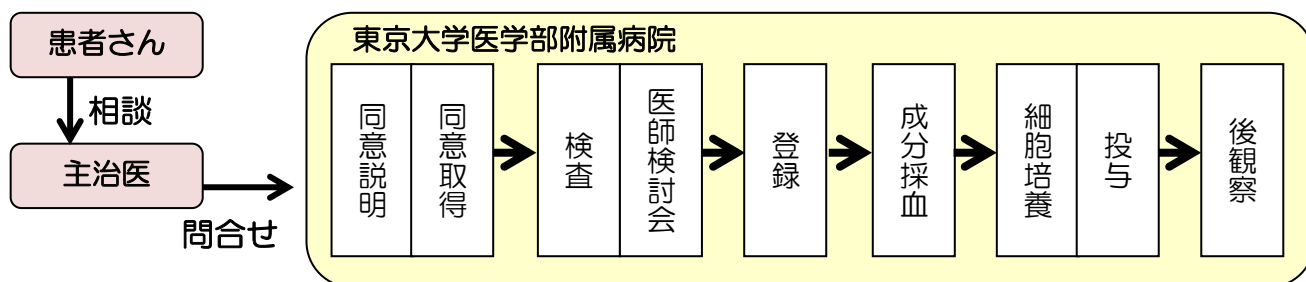
◇ 治療の方法

γ δ T 細胞治療は2週ごとに合計6回の投与をおこないます。
静脈内に点滴で30分かけて投与します。

6回分の投与に必要な細胞は、治療開始前に成分採血で採取します。
採取した細胞は、凍結して保存し、治療にもちいます。



◇ 治療の流れ



◇ 費用

通常の外来受診や血液検査、CT撮影等の診療に必要な費用に加えて、

γ δ T 細胞治療の費用 1回につき約 220,000 円
(6回の治療で合計 1,320,000 円程度)

が、先進医療技術料として必要になります。

※ 民間のがん保険や医療保険の“先進医療特約”などによる保障が適用になる場合があります。
詳しくはご加入中の保険会社へお問い合わせください。

第3項先進医療【先進医療B】

先進医療技術名：「ゾレドロン酸誘導 γ δ T 細胞を用いた免疫療法」

◇ 試験実施期間

平成24年7月1日～平成31年6月30日

(登録期間締切：平成30年12月31日)

平成31年1月1日以降の新規症例参加はできなくなります。

◇ 治療を希望される場合

この治療を受けていただくためには、現在受診している主治医の先生のご協力（医療連携）が不可欠です。この治療を希望される方は、主治医の先生とよくご相談ください。



【ご連絡・お問合せ】（主治医の先生からご連絡をお願いいたします）

東京大学医学部附属病院 呼吸器外科 γ δ T 細胞治療 事務局

FAX：03-5805-3164 / TEL：03-5805-3163

メールアドレス： haigangdt-office@umin.org